

令和 2 年度 第 1 回穴栗市環境審議会 議事録

日時：令和 2 年 7 月 1 日（水）午後 2 時開催

場所：穴栗市役所 4 階 会議室

1. 協議事項

(1) 穴栗市環境基本計画（第 3 次）策定について

資料 3：計画の基本的事項

(2) 市民及び事業者意識調査について

資料 4-1：穴栗市の環境に関する市民アンケート調査

資料 4-2：穴栗市の環境に関する事業所アンケート調査

資料 4-3：穴栗市の環境に関する生徒アンケート調査

資料 4-4：穴栗市の環境に関する児童アンケート調査

2. 議事内容

開会

第 1 回穴栗市環境審議会の開催が宣言された。

あいさつ

市長より、あいさつが行われた。

各委員・職員の紹介

各委員・職員の紹介が行われた。

会長の選任

穴栗市環境審議会長に山村氏が選任された。

諮問

市長より、穴栗市環境審議会長に穴栗市環境基本計画の策定について諮問が行われた。

(1) 宍粟市環境基本計画（第 3 次）の策定について

【事務局】資料 3 についての説明。

【委員】SDGs は重要なものであると思うが、概念自体が曖昧である。SDGs の本質を知った上で、市として推進していかなければならないと思う。

【事務局】ご指摘の通り、SDGs 自体は非常に抽象的な内容であり、それぞれの立場から、自分たちの取り組みを宣言する枠組みとして、SDGs は存在していると思う。

【委員】プラスチックごみを減らすためにレジ袋を有料化するが、バイオマス素材の配合率が 25%以上のレジ袋を製造する際に使用される原材料は、遺伝子組み換えのトウモロコシなどである。バイオマス素材のレジ袋を製造するために栽培するトウモロコシの近くで、人間用の大豆を栽培した場合、交配して汚染される問題が出ているため、どう対策を行っていけば良いか困っている。

【会長】レジ袋に関しては、現在、取り組みが始まったばかりなので、人間社会が取り組みを進めた第一歩ではないかと思う。色々な視点から意見を出していくことが重要である。まず、出来ることから始め、一見便利になったとしても、負の側面を持ち合わせていることもあるので、注意していく必要がある。

【委員】「宍粟市環境基本計画（第 3 次）」を策定するにあたって、現行計画がベースになってくると思う。現行計画については、記載内容を見ると内容が漠然としている。色々網羅しすぎていて、どれが大切なものなのかが見えてこない。将来像についても環境主都を謳っており、大きな目標を掲げている。

【事務局】将来像に関するご指摘に関しては、1 次計画や現行計画の時から議論があった。市民が身近に感じられるような言葉で、もう少し具体的な内容となるように議論を行っていければと思う。

【委員】また、アクションプランとなるような具体的にどの主体がいつまでに取り組みを行っていくのかが記載されていない。

【事務局】アクションプランとなる具体的な内容については、市民や事業者に対して、市の取り組みを参考をお願いするものであるため、目標の設定までは難しい。市の取り組みの部分については、もう少し、実行計画の内容に近い具体的な内容を記載しても良いかもしれない。

【委員】国や兵庫県の環境基本計画においても、都市部と山間部のそれぞれが役割を担っていくことが示されている。宍粟市の場合は、山間部としての役割を担うことになると思う。資源の循環をキーワードとして、宍粟市が担っていく役割を踏まえ、具体的な取り組みを検討していく必要がある。

【会長】環境は分野が広いので、様々な内容を網羅しようとする総合計画に近い内容となってしまう。公害分野から自然環境分野までを網羅しなくてはならないので、非常に範囲は広がってしまう。その中でも市として、具体的に何をやっていくのが計画で見えるように検討を進めていく必要がある。

【委員】「宍粟市環境基本計画（第3次）」については、地球温暖化対策実行計画の区域施策編と事務事業編も兼ねた計画になるということか。冊子については、別々に作成する予定か。

【事務局】環境基本計画の部分と地球温暖化対策実行計画部分では、内容で重なる部分もあるが、別々の冊子として作成する予定である。今後、環境審議会の中で、議論があった場合には、改めて検討させていただく。

（2）市民及び事業者意識調査について

【委託事業者】資料4-1、4-2、4-3、4-4についての説明。

【委員】市民のアンケート調査票の問1の設問の聞き方について、男性と女性の項目があるが、現在の社会情勢を考えると、選択肢が男性と女性だけで良いのか。

【事務局】選択肢については、改めて検討させていただく。

【委員】それぞれのアンケート調査票の記載について、片仮名の文字で、半角と全角が混在している。

【事務局】記載については、統一を図るよう修正する。

【委員】児童のアンケート調査票については、学校ごとに配布を行うのであれば、問1の学校名を問う設問は必要か。必要な場合の理由としては何があるか。

【事務局】学校名を記載していただく理由としては、仕分けしている過程で、他の学校と混ざるのを防ぐためである。学校名もしくは番号でわかるように管理する。

【委託事業者】学校別でクロス集計は行わないので、きちんと学校別に分別してあれば、集計上、学校名が無くとも問題はない。

【委員】このアンケート調査で、どのようなことが把握できるのか。委託事業者に分析をお願いし、結果を出してもらおうということか。

【委託事業者】本来であれば、第 2 回目の環境審会議の時にアンケートの調査結果を報告する予定であったが、新型コロナウイルスの影響から第 3 回目の環境審会議の際に結果を提示させていただく。

【委員】穴栗市以外の地域概況等の条件が類似する他の自治体の意識と穴栗市の人々との意識がどのように違うのか。他の自治体と比較するようなアンケート調査の分析は行ったことがあるか。

【委託事業者】分析は実施したことがある。しかし、自治体によって同じ環境に関するアンケート調査でも、聞き方に相違があるため、一概に比較はできない。満足度や関心度、将来のまちの姿等についての比較はある程度、可能である。そのため、参考資料という形式で、第 3 回目の環境審議会の際に提示させていただく。

【委員】アンケート調査票の記載内容については、非常に細かく、多岐にわたるものとなっているが、調査の目的は何か。

【事務局】アンケート調査を実施する目的は、まず、現行計画の策定時に実施したアンケートの結果を比較し、意識の変化を探ることが目的である。また、広く環境に関する事業を展開していく際の参考にさせていただきたいと考えている。

【委員】アンケート調査を実施することの目的を明確にさせておいた方が良い。個別の事業に関する内容と、環境全般について広く聞く内容など、聞き方にメリハリをつけた方が良い。

また、設問の項目についても数が多いと感じている。

【委員】アンケート調査を実施する目的が何か疑問だった。調査票の設計にあたっての意図が理解できる資料があると良い。その資料の中に現行計画の策定以降、市民や事業者の方々の意識がどのように変化したかを探るために比較することを記載いただきたいと思う。

また、調査の手法について、設問の項目数から見れば、回答できるのは時間のある高齢者が多くなる。他のアンケート調査の結果においても、3割以上が70歳以上となっている。高齢者の意見を多く吸い上げたいのであれば、それで良いが、若い世代の意見も必要ではないか。そのため、調査方法を郵送以外のものに変えられないのか。

さらに、設問について、SDGsをはじめとする環境を取り巻く動向などの記載がないため、その辺りの内容を盛り込んでも良いと思う。

【事務局】アンケート調査の目的については、説明文章の中に、記載を行えば良いということか。

【委員】回答者に示すための資料ではなく、環境審議会の委員として、どのような目的をもってアンケート調査を実施し、計画に反映させていくのかがわかるようにしておく必要があるため、手持ち資料としていただきたい。

【事務局】調査の手法について、あくまでも市の総合計画の下に、環境基本計画があるので、足並みをそろえ、不特定多数に広く平等に調査を行うことができる郵送で実施する方が良い。

また回答率が少ない年代層にも回答しやすいように、設問の項目を可能な限り圧縮し、対応させていただく。

【委員】SDGsについては、認知度を問う設問を追加し、宍粟市内における意識の現状を探ってみても良い。

【会長】SDGsに関する設問を追加していただくということで良いか。また、調査票の設計にあたっての意図が理解できる資料を作成いただくということで良いか。

【事務局】SDGs に関しての設問を追加し、調査票の設計にあたっての意図が理解できる資料を作成の上、アンケート調査を実施させていただきたい。

【委員】アンケート調査の目的をはっきりさせないと、調査票の内容が正しいかどうか判断できない。

【委託事業者】今回、アンケート調査を実施する目的は、前回の調査以降の市民や事業者の方々の意識の変化を比較すること、環境に関する市民や事業者の意識を網羅的に把握することである。アンケート調査の位置付けについては、計画を策定する際の基礎調査の一部である。

【委員】現行計画の策定以降の5年間で、環境分野の取り組みを進めてきた成果はないのか。

【委託事業者】それを踏まえて事務局と相談の上、調査票を設計している。設問項目数の多さなど、会長からも補足説明があったように、基本計画という環境分野の最上位に位置する計画となると、扱う内容は多岐にわたる。そのため、まずは、環境に関する一般的な内容について、市民や事業者の意識を広く把握するためにアンケート調査を行う。

【委員】資源ごみの回収について、現行計画策定以降の5年間で成果はあったか。

【事務局】市内で発生した資源ごみについては、コンテナ回収を行い、資源として販売できるものは、販売を行い、昨年は320万円程度の収益があった。

【委員】市民が5年間で取り組んできた成果だと思うので、評価に値すると思う。

【事務局】廃棄物の分野については、5年間で結果が出ている。市としても、処理経費の削減に繋がると同時に、温室効果ガス排出量の排出抑制にも貢献できていると考えている。

【会長】市の内部には多くの課があって、それぞれが様々な事業を実施している。そのため、環境分野に関する計画といっても、扱う内容が非常に広くなり、アンケート調査で市民や事業者の意識を把握しようとしても、このような内容になってしまう。ただ、若い人から将来のまちの姿に関する意見を吸い上げていくことが今後の課題だと思う。現状では、調査の対象とする市民を無作為に抽出することしかできないので、市民の幅広い知識と認識を把握することを目的にさせていただければと思う。

また、アンケート調査票については、若い人たちも含めて回答しやすくするために、設問項目の見直しを行ってはどうか。

【事務局】アンケート調査票の内容については、精査し、修正させていただく。また、若い世代も回答しやすいように可能な限り、検討させていただく。

アンケート調査の結果については、2,000名に配布を行うが、若い世代だけを抽出したアンケート結果を提示するなど、対応したいと考えている。

市内の若い世代の意見としては、高校生に調査を行うので、その結果も参考にさせていただく。

【委員】生徒と児童のアンケート調査の調査対象は小学校 5 年生と高校 2 年生で、それぞれ 300 人程度とあるが、全員が対象ということか。

【事務局】その通りである。

【委員】授業中に回答するのか。家で回答するのか。

【事務局】ホームルーム等の時間を活用して行う。

【委員】全部回収できるのか。

【事務局】前回も同じように高校生に配布し、回収率は 100%であった。

【委員】児童アンケート調査票の問 5 の地域の環境を保全する活動についての設問項目があるが、環境を保全する活動は具体的に何を指すのか、小学生にもわかりやすいように変えていただきたい。

【事務局】検討させていただく。

(3) その他

【事務局】環境審議会の議事録については、作成次第、委員の皆様にご確認の方をお願いする。
以上をもって閉会とする。